

近代化する湯浅 - 有田地方の中心として -

行政の中心として

地域最大の古墳である天神山古墳、湯浅党の本拠地、そして近世には県下有数の商工業都市となっていた湯浅は、古くから有田地方の中心でした。明治に入り、有田郡民政局（のちに有田郡役所）が湯浅に置かれ、様々な行政機関が集中しました。



有田郡役所



湯浅港乗降場所（蔵町西端）



JR 湯浅駅旧駅舎

交通の拠点

湯浅の港には有田郡で唯一の旅客汽船が寄港し、貨物輸送も盛んに行われました。この湯浅港と有田郡一帯を繋ぐために敷設されたのが有田鉄道です。全国の鉄道網と繋がる国鉄紀勢線の紀伊湯浅駅開業は昭和2年（1927）で、当時の駅舎が今に伝わっています。

娯楽を求めて

紀伊湯浅駅の開業に前後して、駅周辺には新たな賑わいができていきました。古くからの花街である久保里と、新たな花街として島の内周辺、それぞれに芸妓を取りしきる検番が置かれていました。また、かつては芝居小屋や映画館が多くあって、周辺から多くの人々が集まってきました。

